



2021-2022
国際ロータリーのテーマ

高萩ロータリークラブ

TAKAHAGI
ROTARY CLUB
WEEKLY

国際ロータリー第2820地区
1970年10月30日設

発行
2022.2.9
第52巻
第26号
通巻
2446号

ロータリー月間 平和構築と紛争予防 来月：水と衛生 特別 月間

2月2日 例会より (ZOOM 例会)

『卓話 公共イメージの向上を目指して』

水戸 松岡の地域力を受け継ぐ

公共イメージ向上委員会 小森勇一

慶長14年(1609)徳川頼房水戸藩

公共イメージの向上について、職業奉仕の重要性について、ロータリーの高い規範について先日の卓話で申し上げましたが、本日は、地域に生きる、地域の発展を目指すという公共性の観点から、地域の共同体の文化、価値観、蓄積された歴史といった、地域力と申しますか、そのような地域の基盤となるものを理解する必要があると考え、少し回り道ですが、そんなことを提起してみたいと思います。

そこで、水戸藩という地域、そこでの文化、少し絞って、私どもの地域である松岡を少しだけ取り上げてみました。

水戸藩の誕生

17世紀の初め、水戸藩が誕生しました。右上のスライドにありますように、徳川家康の第11男の徳川頼房が藩主となったのは、1609年です。

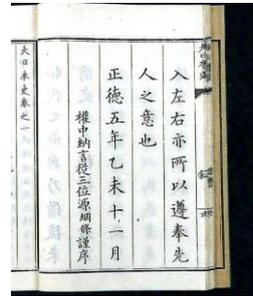
スライドの石灯籠は、日光東照宮の陽明門の階段下の境内にあるもので、1602年佐竹氏に代わって、高萩地方の領主となった、戸澤政盛公が奉納、寄進したもので、竜子山ではなく「松岡領」と刻まれている。1617年のことである。戸澤氏が新庄に移り、松岡領は水戸藩の支配下になる。

その水戸領内では、2代藩主徳川光圀が、「彰考館」という歴史研究所を創設。その学問を大切にする気風や伝統が、まったく新しい水戸藩の



- 佐竹氏(第19代義重)
常陸国を支配
1602年 出羽国秋田へ
秋田初代 義宣
水戸城へは
武田信吉 入場
松岡には
戸澤政盛が入封

歴史や文化を形成していく。彰考館の研究の成果は下の写真のような「大日本史」となる。



松岡の七友 長久保赤水

こうした好学の伝統のなか、城下の村々にも学問の伝統が育っていく。松岡の七友(7賢人)もその地域力から誕生する。そして、松岡の鈴木玄淳というお医者さんの塾で学んだ 長久保赤水は、我が国を代表するような立派な学者になる。木皿村の柴田平太夫は、たくさんの本を買い入れ、若い人たちに読ませて、若い人を育てた。

月 日	プログラム	担 当	2月2日 出席報告		
			会員数	出席者	欠席者
2月9日	24-25年度DGを展望して	GN・デジグネット ZOOM 例会	29	12	13
2月16日	クラブ協議会	会長・幹事 ZOOM 例会			
2月23日	休会 (天皇誕生日)		出席率: 100 %		
3月2日	財団 地区補助金について	次期会長・財団委員会	前々週訂正: 100 %		

事務所：〒318-0033 高萩市本町 2-65
常陽銀行高萩支店内 TEL/FAX：0293-24-0505

■URL：https://www.takahagirc.jp

■E-Mail：takahagi-rotaryclub@h7.dion.ne.jp

会 長：鈴木直登
幹 事：小森勇一

例 会：毎週水曜日 12:30~13:30

公共イメージ委員：小森勇一 大河原浩 大高司郎

田所和雄 石平光 今川隆 大平敏明 滝徳宗

四つのテスト

言行はこれに
照らしてから

1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

赤水は、名前は、長久保玄珠（はるとか）、字は子宝（しぎょく）、通称 源五兵衛、号が赤水、という。（1717年生～1801年没 85歳）

育ったところは、水戸領赤浜村の岩城相馬街道沿いの農家、（なお、現在も残る街道は、1872年陸前浜街道、1885年第15号国道、1919年第6号国道が建設されて、旧街道として、昔の景観をとどめている）

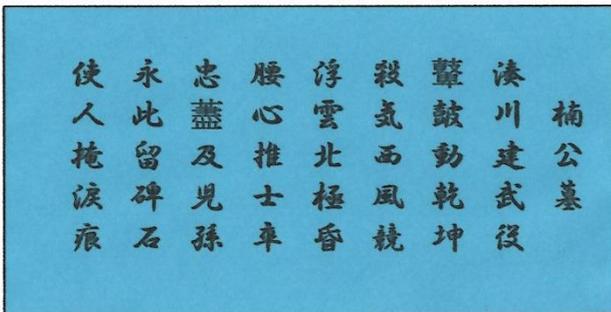
独学で研鑽し、20代後半には、水戸藩の学者、名越南溪に師事し、学問の幅を広げている。

1760宝暦10年7月、43歳の時に、およそ1か月以上をかけて、仙台から鶴岡、新潟と東北への大旅行をしている。（75歳の1793年「東奥紀行」として発刊された）。

長崎に公務で旅行

1767（明和4年）には、長崎に100日を超える大旅行をしている。磯原村の船「姫宮丸」が、ベトナムまで流され、中国の船で長崎に送られてきた。その漂流民を引き取りに、水戸藩から21人が長崎に赴いた際に、磯原村の庄屋の代わりに赤水も同行した。

この時の記録が「安南国漂流記」「長崎行役日記」である。



上の漢詩は、長崎からの帰りに徳川光圀が建てた、楠木正成の墓（1692年）を湊川にたずねて、書いた詩。）

「湊川建武の戦い、戦いの声は天地を動かす。殺気は西風と競い、悪い方の北の空は暗い。家来たちは戦い忠義は子々孫々にまで及ぶ。長くこれを石碑にとどめ、読む人をして涙の痕を拭わせる。」というような気持である。

そして、1779年「改正日本輿地路程全図」が刊行された（右中段はその部分図） 右下は序の文、大きな方位記号と37度、36度の北緯度の線がある。小名からナカ川口24里と書いてある。記号、凡例では、国名、郡名、城下、●湊、○名所、△古戦場、▲関所等や国、郡界が分かるようになっている。

地図には、「安永乙未阿波國儒者讚岐芝邦彦撰」と説明の序文が付されている。この柴野栗山（しばのりつざん 1736-1807）は、讃岐國出身で当時阿波藩に仕えていて（1788年江戸幕府の儒者と

鈴木直登会長挨拶

1月29日のIMには多数のご参加を頂きました。ありがとうございました。最年長の花園さんも



お元気なお姿を見せて頂きました。

さて、今日は昨日亡くなられた元都知事・石原慎太郎氏について少々お話させていただきます。1972年（昭和47年）私は東京大田区大岡山に住んでいました。食うや食わずの生活でした。石原氏は参議院議員をやめ衆議院議員に立候補しました。覚えている方たくさんいらっしゃると思いますが「若い世代の会」が後援会の名称でした。

当時高萩から応援隊を編成し東京の石原事務所に向かう、ついでには上野駅に迎えて事務所まで道案内をせよとの連絡がありました。

事務所に行ってびっくりしたのが入口にあった「石原裕次郎」の等身大のポスターです。そして事務所から出てきたのは「櫻井せんり」氏でした。ひょっとして中に「はな肇」「植木等」がいるかと期待しましたが中には入れた貰えませんでした。後に慎太郎氏は高萩文化会館で講演会を開きました。腕を骨折して手を吊って演説をしている姿が写真に残っています。



なる）、寛政の三博士といわれた、有名な学者であった。このことから長久保赤水の江戸での文化人、学者との交流がうかがわれる。

赤水は、江戸の水戸藩邸に住んでいたが、1779年81歳の時、赤浜村に帰ってきた。

天保時代の水戸(1830～ 弘化～嘉永へ)

徳川斉昭が第9代藩主に就任したのは、文政12年1829年30歳であった。天保と改元されて、斉昭を中心とした天保の改革が始まる。その施策として、弘道館が開設される

弘道館の仮開設は1841天保12年。これが藩士の教育施設であるのに対し、各地に庶民教育のために郷校が建てられた。

こうした時代の趨勢の中、松岡中山館では、文武稽古所の施設を学校専用として、1860 安政 7 年「就将館」を開設した。

阿久津璞齋(あくつぼくさい)、

阿久津璞齋(名を阿久津彦五郎(1798-1863))といい、中山家の家臣で剣術や槍術の名手であったという。文政の頃より、自宅で私塾を開き、子弟の教育に当たっていた。

その阿久津璞齋は、あの有名な吉田松陰の「東北遊日記」に登場するので、後世に名を残すことになった。

吉田松陰の水戸、東北遊歴

明治維新にかかわる、有名な人物である、毛利藩山鹿流兵学師範 吉田松陰は、安政の大獄で「悪謀之働抜群」としてとらえられ、30歳で死罪となったが、幕末、明治の人材を育てた松下村塾(しようかそんじゅく)、で教え、多くの明治維新を実行した人物を育て、日本史上の最も傑出した人物の一人である。1851年、彼は水戸に来る。

その松陰が、東北地方を游学し、水戸に1か月滞在、永井政助宅で自炊しながら、しっかり話を聞き、勉強して、1月20日に水戸をたち、森山宿にとまり、その後、1852年嘉永5年1月21日に下手綱の阿久津璞齋を尋ね、一晚宿泊して、次の日赤水の墓に立ち寄り磯原に向かっている。

この時点が、水戸の地域力として、日本中で評価されていた時である。22歳と若い松陰の日記から、その頃の水戸の地域力を読み取っていきたい。

1858年安政の大獄で、松陰は刑死、水戸は急激に先鋭化、暴力化していく。

(この「東北遊日記」は漢文で書かれている。高萩市立図書館蔵書の「日本思想体系第54巻に収録されている)次の別れの漢詩文を読んでみる。



- 四海皆兄弟 (君子は皆兄弟である)
- 天涯如比隣 (どんなに遠くても隣人だ)
- 吾生山陽陬 (私は長州の田舎に生まれた)
- 来遊東海濱 (今来りて東海の浜に遊ぶ)
- 長刀快馬三千里 (長州から刀根川のほとりまで急いでやってきて3千里)
- 迂路水城先訪君 (回り道して水戸に君を訪)

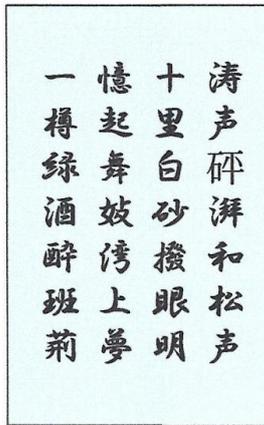
一見天を指して肝胆を吐き
 交際何ぞ論ぜん旧と新とを
 席を分つこと三旬にして吾は去る
 眦を決すれば奥羽萬重の雲一
 浩然の気は天地に塞がり
 東西何ぞ嘗て疆畛あらん
 一張一弛は有國の常
 之を弛め之を張るは其の人に在り
 澹菴の封事 金虜を愕かし
 武侯の上表 鬼神を泣かしむ
 大義今に至るまでなお赫々たり
 丈夫敢えて望まんや車前の塵を
 見君年少尚気義 白日学剣夜誦文
 斗筭小人何数足 (小賢しい政治家等論じるに足らない)
 勿負堂々七尺身 吾亦孩提抱斯志
 欲将韜略報国恩 (兵学によって国恩に報いんと離合集散は気にすることなく (聚散離合非所意誓って名を惜しみ遠方に離れていても話そう (誓将功名遥相聞)

壬子孟春 留別
 順誠 永井兄
 吉田 矩方 (よしだのりかた)

「みずのえね 正月 別れ お世話になった永井芳之助 兄へ」とお礼のあいさつをのべて水戸を離れる。そして21日は、松岡阿久津宅へ泊る。

高萩海岸

なお、日記には、赤浜から磯原村に至るまでについて、「皆海浜の地にして沙柔らかく、松は翠にしてさながら舞子の浜のごときなり」と書いて漢詩が付されている。



この詩は、のびのびとした気分で書かれていて、これから東北に向かう気持ちがあふれている。
 「波の音が逆巻きみなぎって松風に応え、ずうと続く白砂は眼に跳ね返ってきらきらと、思い起こすのは、舞妓湾上の夢。素敵な酒に酔って、海原をながめ、草原に座る。」

と読むことができる。その後、松陰は、22日、磯原村の野口玄宅に宿泊した。

(磯原海岸に吉田松陰先生遊歴之地」という記念碑がある。時に松陰23歳。

その後、松陰は、1954 嘉永7年3月27日、大胆にも、アメリカに密航しようとして、米軍艦に乗り込む。しかしペリーは許可せず、江戸幕府に

引き渡される。

松陰は入獄の後、許されて、その後松下村塾を開くが、安政の大獄（1859 安政 6 年）で、30 歳で斬首された。なお、一緒に旅をし、松岡に泊まった宮部鼎蔵は新選組に襲われ池田屋で自刃した。

これらの漢詩を読み、彼の生涯をたどると、水戸や松岡について吉田松陰が持っていたイメージ、地元の私たちからすれば、地元の底力、地域力にも思いが及ぶのである。

ロータリークラブの公共イメージを向上させたいということでは、こうした地域力への深い理解や共感も大切ではないかと思うのである。

【お客様】

米山奨学生 白 静 様

【幹事報告】

1 大高司郎会員が、ガバナーノミニー・デジグネートに確定しました。

ガバナー月信 2 月号（第 2820 地区ホームページに掲載、会員の皆様には、確定申告用証書と一緒に郵送します。）に、新井和雄ガバナーと白戸仲久地区指名委員会委員長による確定宣言が公表されました。

これをもって、大高司郎会員が

2022-23 年度 ガバナーノミニー就任

2023-24 年度 ガバナーエレクト就任

2024-25 年度 ガバナー就任

が、決定いたしました。

高萩 RC は、ガバナーのホストクラブとして態勢を整えてまいります。

「ガバナーノミニー・デジグネート書式」という 規範遵守や決意を表明する本人の声明文などの手続きをいたしました。

2. 22-23 年度テーマ発表

国際ロータリーより” I M A G I N E ” と発表がありました。

3. PHS 認証式登録申し込みについて

毎年 1000 \$ を寄付し、ロータリー財団に貢献する、ポールハリス・ソサイアティ会員の募集です。

4. 各クラブより会報が届く

常陸太田 RC、水戸 RC、水戸西 RC、水戸東 RC、水戸南 RC、いわき勿来 RC)

5 新年度の地区補助金管理セミナーが 2 月 26 日（土） ZOOM で開催

6 新年度 2022-2023 年度の第 1 回の理事会が 2 月 9 日（水）19:00～ オンラインで開催されます。

【メイクアップ】

1 / 2 2 社会奉仕・ロータリー財団合同セミナー
小谷松政紀、小森勇一

1 / 2 6 第 8 回理事会

小谷松政紀、小森勇一、大高司郎、石君平、田所和雄、鈴木直登、大河原浩、大平敏明、佐藤利雄

【ロータリー財団】

本日計 15,700 円

累計 323,310 円

【ポリオプラス】

本日計 2,300 円

累計 44,770 円

【米山記念奨学会】

本日計 32,000 円

累計 278,000 円

【結婚月の方】 ☆Congratulation☆

2/14 小谷松政紀さん・栄子さん
/21 田所和雄さん・千恵子さん
/28 小泉文男さん・恵子さん

【誕生月の方】 ☆Happy Birthday☆

2/1 小谷松政紀さん